冠注大和物語

上

井上文雄著

冠辭大和物語

穀風堂藏梓

此書は山城の清原ましたとい[illegible]
いのちのあらんよりとおもふ[illegible]
延喜帝より先帝に伝[illegible]
惟公とこのたのおと[illegible]
[illegible]
[illegible]
物[illegible]
[illegible]
[illegible]

清輔袋紙ホ[illegible]作者ふ[illegible]
[illegible]

[illegible]

時鳥日記　此物語の作者は[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]後水尾院の御宇寛永年間 四代の院のうちんの志ろと
[illegible]れとゝきこゆ ゝゝてわらふと詠ゝ
[illegible]あ田の新院の御宇寛永年 [illegible]の院と
[illegible]よつの秋冬
この撰集の中の古今集二十とをも撰今集ともいふ寛永年
[illegible]後水尾院の御宇に撰ゝ
[illegible]秋冬の八社撰ふ中ゝ
[illegible]おなじ
[illegible]書むこ書ことのむとゝく
二書ことを社と古くハたゝ一書ともあらんとなもハ
[illegible]れたゝこ書ふゝ
[illegible]ちゝあれとゝつゝハ一書の完
[illegible]世家 [illegible]
[illegible]

[illegible]伊勢物語かゝる時代
[illegible]れる考あり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

沿革あらましをとるべくふるきものの世にふるとまれとの世てふとハ沿

革とりよこしとときこゝるまゝ物がたりとなりぬれとたゞこゝちするのこゝろもち

のくだりこゝろつひをうとくゝ沿革の沿革とまゝされハるのゝふ物語のゝひとめ

うゝあきらゝくこゝろうにきぬ業とゝ物がたりハおのれぶふのきおゝ

ゝあれハとゝゝこゝのゝゝとゝ物がたり書

ゝゝ物がたりとゝ物がたりとゝ物がたりとゝ

ゝゝのれきゝ物がたりとゝのゝふゝのゝひとゝ

ゝゝきゝ物がたりとゝ物がたりとゝ物がたりとゝ

の中ゝ小物語ふゝゝゝ

いとゝ秋くゝふかくなれる事も打なれハ所
のいとゝかきくゝ形をしてかたちさくく
物よハとなふ——はるゝ例の物語うくもる
本性うー光のくゝせさくそひぬをハいくゝのくゝは
なるこゝもなるのうぬ色くゝの——

寄合六月

六月五日

井上文雄

亭子院
一代要記云宇多天皇譲
定省号亭子云寛平
九年七月三日譲位於皇
太子云
弘徽殿
和名抄云弘徽殿在清涼殿北
伊勢
古今目録云大和守従五
位上藤原継蔭女七条皇
宮女房寛平之間為更
衣誕皇子云
御
本朝文粋巻一菅公慰小
男女詩注云俗謂貴妃為
御盖取夫人女御之義也云
くゝ——き
くゝ——き八月く大宮の秋
侍られ〻ひ〻られて八〻
内裏といつるさくろの
ろもり

宇多子院（ナヒレイ）のくゝこのとゝもそれうる孫ひなんさせ（させうくんとそうちうこう）ちゝ浪反（ちうくち）伊勢（あるくち）の内記（ないき）おつたくる
後撰別大鏡
わつのうれとあひ（はもくあ）ふ（ふ大ふ秋）まぬそくーき紙
家集六帖
くくこのなるのかれ菜
ひくのうれ（そそ）ハみのと出らんしてそのかるいう
小かきは菜さきを結うけ
後ろの大
あ
ゆきめくりてもはのんさくく舞
くくなんあちこる
みのかくおるる孫うをそれ秋くくく
宇多帝
内裏

[illegible]

扶桑略記巻廿三文昌泰二年十月十四日太上天皇落飾入道法諱金剛覺云、大隆ホ也十四ヒ
いつ〻一代要紀ホ廿四ヒ
きる八ニ
まゝのこゝの秋
ハ
ハ
ハ

大行満徳高日天徳元年
こゝそいらゝ侍の女嫁
ホとり
源大納言
紹運録云源清蔭正二位
大納言賜源姓天暦四年
七三薨云、
京極御息所
大系圖十四云時平女号
京極御息所守多天皇
后寵子
法皇御賀
日本紀略云延長四年云
九月廿八日京極御息所
奉賀法皇六十御算云、
於中宮之御所
[illegible]
作者部類云藤千兼妻
ひけとゝもむらさき

枕双紙巻五
なまめかしき物の条云
[illegible]
[illegible]
[illegible]

かくこうの舟
角なるものの立たるやうにてこれをいふと云説をいきいるこみ見きいてかくのうのさとしてるもとにおかしほおのくてはいこうとくこうそとうきこ新拾集イかくこみの舟まのれる石浦のこうるりくせいほゆるこのれ
六帖第三
浦せくかくこみてこのなくこいこれるいそこのちとうゆん
かくほかこうくこう舟は浦ふさるそさやくこのおれさるくこもさそこひしこもよるこ
物とうくふ
ゆくこうもこのこのこ

しなひ物うとくふもきあんこの部分
そくこ成をうまてを
まく物のいくこちくくくこのれ
そこるしもこ物たをひいくくこ
とくなんやを拾つくこれいこのなくめくく
浦まくこるまくこのくこるこ
四の大成純友のさきわきの討手のつひイ
はくせくかれるくくくこくこおほや家
ふもほのこまつか四位まも家ぬまくこよ
あくこれいこのこの倍あくこるこ

賜

うちくくく
俗系ふ引つきてるの
こるやう
ふなう
第三の字音いこる説ろ
しいる物ちきこくこる
説々例の字音できこる
例後こ六帖ふ物きおかひの鉄ふふくる物きき
系もちくれこくる系と
いれれくこくる後のとけ
わきく拝おくくこ大のこに
鉄とあてくるこふ川
なくこもこう
ちゆ口記ふこるこくく数度
のつときてはこくふる
これくこ女き乳きこの
ひくひふきをあてくこ
こふくるふこれ第一こ

これくいこのこうおほくこれと系るこく
ある人こをおくきこと成ある人こと四位
ふ第こくこいふあくこいひくこさもあくこ
さくこのれるこ成くこいくこきこのんとかのふほふ
京れこうあくふを号る恵のきみのこと
むこてきこあるいこ四のこうこ社くこてあくて
これくこくつのこと物こてこかきのてこてこ日号
やこの紀くれくふ
後拾雑一
朗家
むくこ家ふくをあくぬきみのこを
なくこれのくこ
あくんやこ社かし

こ家古
のくふかくん菱活記

[illegible]

野大戟

公卿補任云小野好古元慶八年甲辰生云大宰大戟従四位上菖蒲一男云天慶三正月兼追捕凶賊使云

純友のさわき

日本紀略云兼平二年十二月十九日乙卯諸卿於陣頭定申藤原純友乱悪事云扶桑略紀云

かのいくさ

二月廿三日除月といふ

かはやうて位級を落るるあれこそとゝひろの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日本紀略云延長元年三
月廿日云々子刻皇太子
保明親王薨云々
大輔
大鏡裏書云大輔乳母
事文彦太子御乳母
但馬守源弼女
后ふ云々
日本紀略云延長元年四
月廿六日庚午以女御三
位藤原穏子為中宮
前皇太子母也云々
あさ〳〵の中納
哥仙傳云中納言従三位
藤原朝臣朝忠右大臣
定方五男云々
あひもくり
ものうらはなれてほよる
とゝり日のもとゝあふ
ふる月とふるさと

たるかくちなんいひやをたる

新勅恋四

なつ草のとしをへたるさわとおもひ
なみさはぐこゝろぬるゝかなれ
女いかゝあれとおもひ事程
堅法師の歌のなかにまし
のよひたるをかるのみたれこのひゝなかむま
うてぬるゝまつ人れさ出のうつことふ

元良親王集

あつまるのうゝさの示ふゝかゝむ
元とよ紅ゝわのきみとなさ（廿七八家）は
とまりたれはあゝふこのみうゝ家社とお

きみ〳〵る
男女ゝ〜とをはして
をはしまるとをもむよりう
ゝ家ゝ〜ゝ〜おゝ
あるゝゝふあゝ
ひゝの国
ゝゝき家ゝ云々
いくゝひの中のこふ
のつらひいるゝて云々
ゝゝりちゝゝのかゝふ
て女ゝをとり
ゝもかれゝ
ゝゝゝゝかゝみに
ゝゝゝ
あつゝゝく
ゝゝゝ男女ゝとかゝは
して為ゝるゝをゝう
いれゝ物のゝふゝゝ
きゝゝは
隆ゝ弱代石詳

ハまてなんおほゝのこりよ家ふかく

佐藤

てゝ久ゝくおゝれゝゝ弱ゝゝゝふゝの
ゝふのゝもゝとなゝひゝくゝゝゝゝゝ
物をゝゝるいのふおほつのれゝ見ひつゝん
なのゝいまてゝりゝるゝのゝふ

同条

おほゝゝの池れのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（八条院）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（佐藤）
ゝの奥ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
桃園の兵部ゝの云うゝを弱うゝゝゝゝゝ月
つゝりをゝりゝるふとゝゝのゝのの

中務宮

おなじ御子なる小兵衛親王と申せるはこの元良親王なり（但し元良親王は沼運孫小二郎兵衛尉とあれど中務宮なり）もろもろ書るふること信憑なし親王の事なるべしかるのゆゑこれは大白神のうふあるをいつて

和名抄云大白神云々

和名比止比米久利

萬葉集

ひさかたの天つ乙女は
いそべにはしるらむ
なくあるひとよめろ
みそぎをしてうらうらに
ふれ

小の方ふるてまつりける

続後撰雑下

大のうしの祭れ果ふ無一きて
けるあ無いのてのきみを流らむ
かきるとれくに地と思ひくたなきみるしまつ
けるふかくいるわけれは
あらはそそぬも果ゝあもなくめ
けるふすもあてきてふ一方の波
豎命婦提る者活れ
栗田とうふいきけるふさるものあをわ
アとれはよみてうをける

大沢池

山城名勝志巻九云大沢池今在大覚寺東側云嵯峨小性とて駅亘のいつもいてきをのこちいてうを

桃園兵部卿

訪和小敦固二名兵部卿云々

延長五年九月七日薨ゆ

あるハ可ふるうふの結

遅孫小八延長元年十二八

薨ゝあり一代要記ハ二郎

式部卿延長四年九月廿日

薨とありて九月晦日とて

といつまあるべしてハ四十

九日又一周忌ともいふ歟の考

小のうふ

紹運録云慶子内親王

配敦固親王云々

あるハ云々

あるさ宿をとのふるこゝろもわるるの和

ふちせあるとと無ゝうもいと寄ち

清慶

あ源大納言の昊たゝふさぬ一の内むとめひの

のをとゝうこゝろ思ひくもみわうり孤ゝうふ

言るよ流のあの宮ふつきゝてまつり給てほく

ふ家親るゝ心なるまたれいさとたとれれ

於き恋三

なのはるよるんをみるゝたるさてよゝてやは孤ゝる

そみのくの松なるふくふ久一くもも

吳服ゝ新ぬよれなるふたるの郭

ゆるあるとたれはこゝ

くふうもあるべしなどいひて
ふかきものの
とのゝまうし

ほくゝ栗田
山城名勝志巻十四云堤河
西宮抄云堤河東河也云
和名抄云愛宕郡上栗田
下栗田云

ふちせあるとゝ
古今集雑下
あをうなてよめる　伊勢
あをうの国にあるぬ
あをうのせふのうらわか
ふなてをする

この八とゝうつも
古今恋三
思ひとゝ人ゆゑものゝ
なれいの八とゝはなる
ゝそわゝね
川ふ彼ゝそゝう

同
人ゝ人も拾れ
よのほやゝふるひおひのくるふらむ
ほのむなたれ
おもゝおとゝこのうをとゝてまつり拾うを
ゝのあをを拾てたれとたゝめをろ
のひくよるゝのひるゝたる法のうを（拾ひ古）

新古今恋三
あくといてほつゝかやきたるあるを
ゆめやゝ夢ゝ絶よるのゝ夢ゝ八幡
うまの主ゝ藤原の子孫といふ人のめよハ（ナシ本）
とゝまといふ人なんるたるゝあるゝ

忠房
古今目録云太宰大貳廣
敏孫信濃掾是嗣子也
云子孫のゝゝや
紹運録云部子内親王
配大納言清蔭云
匠作の皇女ゝこふゝ
子孫のわゝゝあるゝ
ゝゝ流のゝゝやりふせさ
きゝまひゝゝや
古今雑上
よみひゝらん
あをゝゝもゝゝゝ
何のゝれ岸のひあ松
いくゝとめん
松やふゝゝひ
いゝゝゝきゝとかゝ
ゝまつゝ
おゝ
たゝふゝきゝ法云
ゝゝゝいゝ一説

（ナシ考活古）
ひくゝとみたるほとふかく染よたれハ
ゝきゝゝ考活山　れ以
このゝくゝのゝ思ひあるくほふ内の新人ゝあ
宗る一条の昊ゝいひたる人ゝ思ゝいとゝくゝ井
たるゝ人なゝたるとかく染よたるゝ行ふ心ゝとハゝ（ゝゝ古）
たれハあゝゝ思ひあるくほふとゝぬ人の浦ゝ（けゝ古）
の女なゝむあひゝ
松ゝひきゝやるゝ　ひのゝの船ゝきた（さゝたれハかゝ名古）
きみ出へゝゝくなゝん方のゝゝは
ゝきゝゝんゝのゝ思ひたれハの魚ゝ（いハおゝをゝたゝ古）
なのきゝむゝとらよ法のゝくふゝのゝゝとて

大武の御母とおく神く
とゝう大武の三ヶ所
一一 吉野やよとゝと
あるなり
あくといつし
よのかるふ飽とそて
しつかゝといつく
子孫
作者部類云左京大夫
忠房男云
品ひあるく
ゆかいとるなといふ
あたゝ
内のゝらく
女花人なり一
一条の天
紹運録云三品神祇伯
負平親王女云
きこのく
きくとそのつて いる 造
古今恋五

なくく一のふほゝれうくみ
本院の山ねのうの
ふ古衣五
わねとうふいま
ふ古
きまたるこ
多もまつうら
おうもの
いたれ
又和とのえ
多わたるまう
うてまはりう

まくうふやりふるとそ
家者ときくれひそ
ひくのきうくふ
なきくとうふひるは
天のふメて花ことまと
クれハうもきてこう
なりくあひてあるほて
そとうる
本院
於女抄云中御門北堀川
東一町在大臣時平家云
おとうと
時とき一て ていて 寺本云
云その的天ハあるんのお
とうとやわるこ云あ
ゆ云女氏の氏ゆとうとう
ちふこそハあるあ云
わかつうれ
ゆかつうれ おるハよ氏
うくに和ゆおふ奴僕
豆布祢とあうたく

後撰雑二
かはたなるあ
えこくは
ゆくよみく
もの
陽成院
ゆ将
はるの
つくゆ

かるる名をつきしこと
伊勢
作者部類云敦忠卿母
第棟梁女云〻
陽成院のミこの
一代要記云諱貞明清
和太子母二条后藤高
子貞観十年十二月十六
日誕生云〻昌泰二年十
月廿四日出家云〻
さる所いの地のむも
れきを名云傷
人も
ゆきもとゝろねくれ
ゆくとさるなのいくの
むかしとゝろをとゝ思き
物語の文
詔運録云後子内親王
号鈞殿宮配陽成院
云〻

和式部の女はいとこの伊勢のもとに
敦慶
ゆくをとゝれさく後女房ゆふことはなくてやまた
ゆくれはせ將
春のせゝりあるくふるゝ雨もの
ゝゝとふにゝゝ雨ゝこの事ゝ
出羽のこゝ
たゝゝも高のゝ作ゝまゝ春のをを
あゝくをとゝれのたゝろかさしは
和式部の二条の
敦慶
古山イ位表活
のむつきれ七月のひわのなゝ弥ゝゝふ

ゝゝくさ
来ゝたさせ弥ゝぬゝ
まゝゝをゝいゝりゝのゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
陽成院
於茨抄云大炊御門南
西洞院西伴院御誕生所
云〻
古写本ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
和名抄云荳草
和須礼
久佐
古今恋五
ゝゝゝ法師
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
故式部卿宮

ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
於ゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
世ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
古法本
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
夕ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

紹運録云敦慶親王三品式部卿延長八卅薨
古今秋上　　左京栄梁

[illegible]の野辺のくさの露のなかにきりうゑ出くまねく神とゝゆゝん

二条の内やゝ示
一代要記云正三位藤善子右大臣定方女云二条院云定方女善子醍醐天皇女御号三条御息所云
七草の日あり菜
荊楚歲時記云正月七日為人日以七種菜為羹云
[illegible]
[illegible]

[illegible]

故式部卿敦慶の宮
[illegible]

久方の月の光なる世界
ゆくゝもみゝゝきゝゝゝ
[illegible]なむるけるか
良かれ[illegible]の[illegible]なるゝゝ賢の[illegible]
なんもみたる女のかゝよ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

老のれハ物ゝ[illegible]
[illegible]
物ハ監物四[illegible]
[illegible]
[illegible]

一どう

撰ふ古写本ふ一〜
どくしあるハ宗徳の考仮
ものとなるしいてふと
きふ侍讀ものとの
師とりふとうる仮ちう
けのう一

むろ
ふくろハ多く俗房を
のいつり伊勢物語一
一ひくもむろふまう
てく　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑのくまりてむろのの
ゆもまりてひそうると
俗切わ一

和名抄云室　和名無呂
せうと
兄弟の男子ともいて
いつり相壺ものいとう
とのの兵ひてのくこうと
弟本業云せうとの

さきるいふ物のといひられハよみくやるる
萬代雜三
とそられいつちゆのまー　ひても
のうきくこととそ牧志ものこ　ゆくこ
形形人のれ文の今恋侍らをふたるまーの
秋あふられのさきとあつまちくよひるる海のう
とひいまとてのくぬこのあはきなる事一城
客人
まらうともあるまーもこひうも知ほうこまイ
霧立わるさきるとたるまらうと
六帖
知きるるの中ふ見まるとこのなるはは
はるるまるるるるるるるるるるるるるるる

同
とひたりかんきこうこの歌一
いとられらハなとるをたもあるれむあきる夢の
まきられふうくぬきみとれのとる舞
まらうとるとて男うくなるなるふれんるたる
新式敦慶
新式敦慶の宮ー三条のたれおとことと者
定方
敦慶
敦慶なるるるるまるるる若うち伊遊
なるるるるるるるるるるるるるるるる
古
まうるるるるるるるるるるるるるるる
新勅秋上
ゆるるるるるるるるるるるるるるる
ゆるるるるるるるるるるるるるるる

それとるふ
はたまの古と集のとる人
ものるるーてれられ
ものるる秋立の歌ものる
きうるる
このいせう
後拾集小戒仏とある
ふるる一　古写本ふ既
ふのきんとるう意夜
ふのくいるるる一
歌立集云のいせんうせ
ぬるるく彼さいの立のの
まきふんうとるといい
ひく敬忠の中ものの九ふ
おるる
明られて今集あるるる
見ひ一とれるのの中ハゆめ
ものるるるる続後拾
き集もおる一
いまるるのるる
おるるるまきぬるはれの

三条右大臣

古今目録云贈大政大臣
正一位高藤二男云云号三
条右大臣云云

敦忠朝臣

敦忠朝臣は時平の
大臣の第二男也
母は
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

後撰集友

[illegible]

[illegible]

[illegible]

従四位上利基六男ニ号
堤中納言ニ、
大内山
花鳥余情ニ兼平三四
若狭国所献之雉放棄
内山ニ、仁和寺の名所
あり〳〵ニ、
齋宮
延喜式ニ凡天皇即位者
定大神宮齋王簡内親
王未嫁者ト定
前齋宮
齋宮記ニ柔子内親王
宇多皇女在位六年ニ、
しけのこやこ
和名抄多氣郡多氣郷
出雲
拾ふ出ニのるほうと
ゐ〳〵んとるふ下絵を
かえ〳〵いつもくのこふ
てゝ女ときこえて及ニ

たの〳〵ときこの浪彼高砂のおき〳〵まもとゐ無
為家の初ニなんいそひたる
出雲ニのえ〳〵かゝひとまたそ〳〵ニ郡ニくきを
さるまたる村(すゝ)秋みゝ重宝れ
かくさたるふ乱ニ乱ふあれわつゝめふ
わ為〳〵ニ為ニやいふくかりけふ
先帝の五拾ニこの作むもあハ二条の更といふ
清和
く京極の内ニ不の所ふさふひ給ふ作
衰子
ちくもあ〳〵ぬるあわくまのてゐもゆきの
ものめふて〳〵いまはるるく
壹岐守

をのそまんよりあ〳〵
花ものもなまたくかるく
そ〳〵ニ之ニの花ふ武拾
きこよう〳〵ふくいつもやゝ
やのやハやハのこのやう
ちとゝいふふ見ニとく
ゝゝとゝ云ふ記ハ紀之
先帝の五のこと
拾ふ五ハ四のやまゝうの
紹運録ニ清和ニ四貫平
親王女一条君後撰拾遺
作者ニ、但一紀運録
のかゝあやまゝうや先
帝ニこそハ清和帝と
ト申ん
ゆきこのちくニ立いきの
ものとかいて勅撰ニ云
記ハ紀
なるさほふあるて秀
ふ帆とのねていつ

為ま作のふさ〳〵ひとあ〳〵ハわるのはら
なるきほふあるくいあるこ〳〵白
伊勢のるもろこもちのみをめをたるあきらの
宰相中
中務の君ふ物をとあるたるきふそこたるも
ゆるうちなるとハ(なしき)たる京のゝこよひ出くこの〳〵〳〵ひて
宗于
ものふよみくたゝをあわたれ
新勅恋三
たく(くるのおくとまつの形初)ともまゝるねあ作のほそ
ゝんとゝ拾〳〵なのくあるくか殺け海
桜のこふ武紀之の之ニ拾うたる何その宮
孝子
敦慶
ふさふ〳〵ひたるうたなるたん世ニ夢ニとんや

ゝ
ゝ
ゝ

こゝをつひとこゝを
さゝひのこゝを
よゝやゝれく
よゝかし波のゝゝこゝ
ゝをゝをゝをゝこゝふ波し
用ひゝゝ法花ゝ
志ゝゝ惠秀の傳ふ
詳
ゝんさ
いのゝの作ゝふさゝゝ
ゝゝあゝゝをゝかゝふ
いひさゝゝゝ如をゝき
ゝをゝゝゝゝゝゝゝゝ
きひいゝ
あふゝをゝゝゝ

切のみ
多教を云きゝこゝけ
ゝゝのふまゝやゝゝ
このゝのゝちゝゝふゝ

あつまわくよゝまんあきたるあやゝゝゝる
ゝるゝのゝふこゝゝゝゝゝれ
志志ゝゝふ法師のあるゝの法ゝんさつゝゝま
はゝゝほゝふゝのゝくゝの中ふいゝるのおゝれ
ゝよみゝ楽ゝゝゝ
さふゝゝいゝふゝゝゝゝゝゝゝ自雲の
ゝゝふゝゝれき身ゝゝゝゝゝむ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ式人のゝゝふゝゝゝゝゝ
紀ほゝゝ家ゝゝの身ハ意のゝふなゝゝ
なふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

この
ふゝ
ゝ
ゝ俗の板塔ゝゝゝ知
のゝゝくゝゝゝゝゝゝ
ひゝのゝくゝ
西ゝいゝゝゝ花深の
ゝゝ貢ーゝ
西ゝゝゝゝゝゝゝ
民部式ゝ九飛彈國
毎年貢匠丁一貢ゝ

ゝつき
和名抄云鐇　漢語抄云多都岐
廣雅斧也云ゝ

新古今雜下
五摩法師
都ゝりゝゝゝゝゝゝゝ
山のゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝん

此大德坊ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるさめはふいひおきをこるる

新千恋四

うちとけてこそ見そなれつらん　彰ぬ
あのわきまるくこひふあのうの　彰ゆ

をんなの奥ゴ

新拾恋四

しら露のおきふしほをこひつゝむ
わせこハきくおくいそのこの夫まく

関白家の一条のきみ

おくやまふこころとい社くうねとハ
ふのきあ社ふのいろをこまーや

先帝の内とき刑部の夫てさふひ社ふ　不詳

亭子

たゝる夫衣のさとふまのるを出まうてうう
まのるを社んさるたるふはのそ仁るる

新古今恋一

大夫をわるるもるのけなるや
よわふのこ〜てのけこるらん

おたな〜帝一条院のこの内を小業万

はるる

続古秋下

ゆきくぬいのるみて世をまハ
夫院の内返るるのをまーやとの我く　度の〜らきく　続古
わのやとふいろをもこれるは

齊院記云君子内親王字多天皇第十皇女也云〜寛平五年卜定醍醐帝即位未改之云〜

ゆきてこぬ

ゆきてこぬといふまれ
あく夫院のまゆ
てこまそぬをいふ帝
のゆきてこ社ぬこと
ふ夜ハひのことゆく
るしのそ〜いるる

よるもきくのをとこまーや

かんきん山ふのほるまく

新於雜中

ゆきさきのらくこころきぶふみるかのハ

うきをとそむくわの身なわ家わ

京院よまうちふ

ものかくをうきて家おく秋るれハ

えもつくたるわゆるこの邪

侍の奥

ものいろとそもーまるん海家の

こころゆきてハたのーと秋ーかりふ

かきて家おく

ゆくこころのこの中

ふるへてそおハー

まとよの逢情へ

侍

侍家とくきてい

るをなくノ

さつ社もうちの侍

わるつこのふのきこころとなされう

うこみられぬふかのそあわたる

陽成院まるたる坂上のこほうちちふとこ

坂の院ふまたる女ちとるあわく逢さち

たれハ

不詳

秋のゆをわくこん麻ふをのこるや

ーたきさくるふ福をハたのくらん

大京のこ宗子の奥之助ふあるちたるひと

くくくくとくく秋もハくあふも情れ

くくくくう

情変と京使ふくく

くくくくいるこ奥の奥

音やくるとやくくこ

ふくいるこんハくりき

ふくて中くふくう

かゝれつゝわが袖濡れ
沼おきるゝふゝくもり
といふことをうつを
ゝ

しとゝして
責さいなむとゝ
とゝ云られふるのと
あとゝとゝていとゝと
物ゝの考 いのちを
をゝふいひのゝてたー
らねハのうしもとと
つけゝゝとゝいつゝ見ち
よゝのゝ
いゝのとまつハ女め
男とまつゝをつゝきハ
とゝの死ゝゝ

れハ世のむゝうゝゆゝんゝゝ人の国
いきゝるあ見ひゝるをゝものゝゝよゝみく
おゝもゝるゝとゝ

しとゝるゝ
いのちゝく行ゝひゝるれゝかゝるあの
ゝらねハのうゝしゝもゝせゝ

男このきゝるれゝくゆゝひゝるゝ女とおきてひゝの
國いふゝるゝいゝのゝとまちたゝふゝしゝきゝを
いひゝくきゝるゝをゝは
ゝゝんゝゝひゝくわのゝ行ゝ死ゝれハ
このゝゝゝきみゝと行ゝてまゝゝる

ゝ

兼盛
三十六人哥仙傳云天暦
四位越前守改姓為
臣云〻

兵術君
作者部類参議
兼茂女
奥後拾云光馬知道
〻ふゝる昔斉爰仲
たゝゝふゝるゝをゝ〻ふ
ゝるふゝまゝゝせゝ行ゝゝる
ゝゝゝ云〻神非子爰
ゝるゝ〻ゝ〻きゝゝ

中興
古今目録云延喜三
近江權ヲ掾云〻

ゝゝなんいひゝるゝ
敏宗の棹ゝる兼盛兵衛の尉といふ人ふゝゝみ
ゝるゝとゝ〻ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よゝみゝゝゝる

後撰恋五
六

久ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

くれ
と侍ふりとあるはれの
ことく
をのつゝの巻云
あさくらちとてなり
ていのあるさまふふ
きみそんとをとうんと云

らゝある
らゝハ切芳のことを
あふよくゆきたり
ゝくとうり
吳流の三のゆゑ
系圖云貞元親王号
閑院源兼信三河守
従五位下侍従云く

この一つきたるとかたなるてはゝかくは
ふれくひの國ふとうれきかはさたるを
あくれのるくゝ兼盛をみくだをとうたる
後撰雜二
をもみをきをとをはるびきやきゝ
とをみくるんおきをあわたれハのてうをふ
きくよとてなきたるやいとらゝあるく
なるたに
おゝ兼國ゝちのゝふて吳流のゝれこと
兼信
の如ふあるたるくゝろつのていふ信ふ

とゝ拾ふゝふこのゝに
あるハいの系圖ふ貞
元親王のゆゑ兼忠兼
信ゝゝ二人ゝ

和名抄陸奥國安達
安多知
おゝふ
美女をたくゝふれて
つゝ伊勢物語ふる
ゆゝおゝふのとくゝ
くゝとゝゝふ曰一

其むとあとゝもふおこをたるふ
拾遺雜下
うちのくれあるちの子のゝろつたに
おゝふこゝをれるとやゝきくゝまゝとの
とゝひゝるたるかゝてゝさむとめとゝんと
いひゝれハ親まゝいとわのくゝあるいまきくゝの
らんおゝふとゝいひゝれハ京ふいくゝて弘仁に
はたゝく
をもさのうゝるゝのやとゝるゝのゝはなく
みゝのやまゝまゝしろめゝゝ
とゝひゝるかゝてなゝるゝのゝゆゝとゝいゝる

なとうのこゆ
陸奥名取郡ふるう
出湯といふ

はきの松きふハ並盛と
せとなとうのこゆと
かくーよるる

並盛の取わきー
こそ生まるとまの氏と
絶ーぬほーふやえた
まれるほもいひられ
ーまふかくうるや

こと男ーてハ源
の名ふ知てそくーぬ

こゝろしてと
俗のよふかふと文字
ありおゝ人のたーの約
ちるれくたーやーめる
のこるりといつハ汗と
文字とんこゝのみるる
紅のこゝる
うんーて
供ーてのこゝいうて
物不長ぐくーしの音
仮かるくー

とつるゐ～はきこはめまみるうたるといふ
仮不詳
おすこのころつ
おきの松きふ松わつるる
大すのこさこ
とるのこゆ
ちん茶活れ
とるみこつとたるる
ところるる
ーほこのもの
なるもんれ
とるのこゆるとなるる
ことなんよみたる
こと男ーこ
並盛のほるる物ーぬふまるとほたる絶ーとせて
いひこうたれハるるての心欲こしろるーふ
といつたるるこ
ておきをるる
とーはる並くぬれわるつる衣もと
たるのなるふふちやーぬむ
とんるるたる
世の中をうんーてほーるるたるひ
女のこゝふおこ
わるるやとこゝ
ふるくるいつるの

うさ
ゑさこゆ地名の宇佐
とゝ〳〵ゐ
まこゝ集
はく〳〵ゝゝゝやく
ゆふいそきくんこの
あゝぬ月のゝさやの
される
五条の
山長中納言のためひと
いつ
なまゝ〳〵月
ゝ〳〵ゝゝゝゝ
ゑるの行ゝて生〳〵
しき月さつ

河原院
ゝ者物語長廿七丈河
原院ハ融ノ左大臣造
テ住給ヒ家ヲ其大臣

失テ後ハ其子孫ニ有
ヒ人ノ宇院ノ院ニ奉リ
ヒ也然ハ宇院院其河
原ノ院ニ住セ給ヒ時ニ
変ク行幸有テ微妙ク
ゝ
さゝ〳〵
さひ〳〵しと言仮ふ
いつ

五条のことゝふ人をたゝとこのわゝて
ゝこのかゝをたゝゆゝのきゝ女のわゝゝる
をのたく物とゝおゝくゆゝきくかく
なんこのきゝゝねたる
月夜ゆひひなまゝ〳〵とゆくゝハ
たゝゆゝおほゝるこのふさるゝゆる
ゝゝ院ふゝやきん所ちゝおゝゝさし
きゝく住ゝゝまふゝ〳〵ゝるゝこの月の院
のいと世りゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

内曹子

内曹子

内曹子

京極の内息所ひゝこゝろのみゝゝゝとのゝ
ゝてわゝゝせゐひふゝるゝ浮のゝとゝゆゝけ
ゝまゝゝ行ゝるゝさゝゝゝもいと思ひ乃
ゆふさゝゝゝゝきゝのをたゆゝゝたゝ
人なゝかゝひゝゝゝゝ藤の色のいゝゝし
ゝきゝと見このさゝのゝとゝふ志流さゝくゝる
いひゝくゝゝふゝゝふゝゝゝん形ひ行ゝゝ
ゝるゝゝくゝゝゝゝれゝ
世の中ハ浮きゝふのゝゝゝゝゆゝは
きのふのゝゝゝれゝゝゝゝゝゝ

古今集雜下
よゝゝゝゝゝゝ
あゝゝの川さゝゝゝ流て
ゝふゝゝゝゝ

のうさんの哀

伝不詳

浄蓮

扶桑畧記巻廿二云寛平九年丁巳春善相公第八子法名浄蓮齢至七歳志寄三寶云々

ゆかりよりとりよりのうさんの哀

とあるれいんこんにかくるまくれ

このまたれたのうさんの高ゆまつるゆ

うらさるたう男ちのいひる

ふちのうれ歌ひろのぬくもゆるのれ

うつろひてけるあはるー

のうさんの哀ちうひたる人浄蓮とハかふ

なうしひのくにかきうたかきたなく

紫くしるすもいひのうたるのうさんの

哀

ゆかりよりとふちうたとふあうたる

むのーの人ふなふをいひうまれ

うひおきるうたれ人浄蓮大徳の逸ー

行きたのまくきらのうまらぬうちうまて

きうふのきうの身をいひる

あ大系ののうの人のむをめをーのひくうる

ゆうう後歌きはうくのうまておうせ

さうまたれはうまひくのうまふたうさてあー

多ふうみくやまける

仏もうのやうねのあうハたのうめ

なのむきーうるうーてうー

ゆとりいう

きくゆ

宮廷の宮殿ハーれねハたく

ゆうふのきうて海くはふ

ふすすくいうゆ七歳ふ

かうゆ宮廷ハもうて就

ゆうくあひうーの今

ゆきうのすうくひ

ーというふあうーの

思ひてくうハーの

ひくあひうゆ

さもうゆて

ゆうのあうーのあうきハ

歌のいきあのくうきー

という

おき五五　伊勢

さもうゆてあひうん

うのかううあうれ

ゆうくふいうんのうき

女の祝のいさめまちひき
しきりひしとくるこの
風ふるひくハまぶのこの
こころふこゆるれて
うゝして云ゝ云
と云ゝ云ゝ
きく聖のうゝ
らゝた
らゝゝしらゝあり
ゝこれつの法の物
しゝるゝことかゝて
くハいのこゝ
いちゝやく
次方の光く云いちゝやき
世のいゝ世ゝろしゝわ
ゝ云ゝ
四五段式法次系法公一
速比給 止 改志為氏云く
云ゝやきゝ云ゝ日
祝ゝてきひくゝ
きゝゝ俗ふいちゝ

しゝ云ゝ水命
ゝこゝり
時ゝゝのゝゝ
ゝゝ斗のゝ
後拾遺 巻二
和泉式部
もゝしゝてゆゝやゝあり
ん秋のゝハまゝの桂の
ゝゝゝりゝゝふ
わゝゝゝふか
こゝゝきゝこの赤語ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝの
誤ゝゝゝ
南院五郎
紹運録云是忠親王
第五今扶王後四位下
兼香殿御息所 云く
一代要記云常明親王母
女御和子光孝源氏
号兼香殿女御云く
古注ハ誤

平仲ふくゝ
わゝふゝくきゝ
ゝゝゆゝいハ
世ふゝゝ
妻
ゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝ

うちとのゝくる
四まをかゝていふと
こと四のの言ゝ云
説ゝよゝうゝの説

たゝきこと事ふひを
こゝる俗ゝとおゝり
やらひ
やゝとのゝてゝゝ説
やゝとゝ以言発ふ神
祭ゝ法ゝゝと俗ゝ
相壽考云
こきゝゝてわゝく
ゝのゝれきふいま
ほゝきゝ八ゝゝゝゝ
法ふ生ゝゝゝゝ

ゝれゝ八ゝゝゝゝ
ゝふゝゝゝゝゝ
ゝゝゝれゝゝゝ
ゝきゝゝほゝゝゝ

とゝうゝゝゝ文

なのゝゝゝゝゝ

こうれうの
土佐日記二月十六日の
条にこのふねのこと
かくふいふ月あかれ
ハいとくもあるさまに
ゆきにこそはまで
いふこのひるくそこうれ
やふれくるとそ
枇杷殿
北政所公左大臣仲平
公宅にハ近衛南室町
東にく

又とし頃ありける夜さのぬさ袋の面にや
さくらもみんこさるもたまこうれ
くそうたるもの
第二のきさるにふにて物しまひはてにく
ありけれハとし頃
見ぬ人ゆひ記まれきうかて見ぬ人
こよひの面にてとうぬまの物ハ邪
枇杷殿よりとし頃
とおもふこまうたるとそきてめ付て書ける
後撰雑二
やとといつの八月のなかつのイ
あらしてふたりの禁とね
ちの

ふしの神
後れ先ちおの云くり
の神くにの本のきぶと
ちう神のあふおえ
ちくくにく

忠文
公々補任云天慶三年
四月征夷大将軍に

ちのくれむ々八月の
人のちのくれとこるに
へ引むけてあと恨
むとより出る語に
ちのくれとこのれく
ゆむそはこのれく
ちのきくいるに飛
こみくれむこくいる
ほもうそ

なのらこのほふそとうふおこをる
八ね

同集
かしふくのそのね
ちの面てし
ふちの神のまに
ちをし
おしたうるさそ
忠文のこちのくおれ軍まにくくうる
時それのむとこなうるを人を豊色ぬきひ
てあひのくひたうまのくれむたふめ
とうくてのを物
ありたふこのくくるおこ
よひくふこひ出まるかうこ

往
幣

めとりくらハ世ハ
ホめゆいくそ俊ホ
といふものくそ
うちき
和名抄云袿云〜
釈名云守知婦人
上衣也云〜男女共ふ
用ふ

やまそ〜
和名抄云楊梅和名夜末
色〜狀如苺子赤色味
甜酸可食之云〜
やまもゝ
やまもゝ
上ふ豆命ぬつくな
るゐと人ふうゐ
ことこゝろ

こゝろぼそ〜の物ゝ所こそ家る
とゝみうゐれハ女めて いなきこゝろ
おゝ〜人ふ豆命帰やまそとやまわ
身世そ
うちのくれあるうちのやまもゝ楊梅とに
こゝろぼそのれの世〜のゝ〜 伐
となんいゐこゝる時くはぼこゝなる命ゐ
伊ゐるさてあゆとをんとゐくやまこゝる
かゐこの八の涙ゝ鮎ふ〜ふしおゆのいとゝて魚
移くこそこのをゆめふ〜くはや

和名抄云三河国賀飯郡篠束之乃郡加ふゐ
ゐ〜 古賀ふ〜ちく
ことあれとおふゐゐ
うもや〜
うとゐとのよゐて
や〜と自〜ふ世〜
やまゐのうまや〜と
ふそくつあふ〜ぬく
なゐこれ〜さまゐ
のさとのどけくもあ
るくふうもや〜とそ
とまつゐゐあと俊いと
おゐゐ〜とのそゐ尾法
三ゐの人ハまとうま
ふいう方ゐ

小野たき子活秋
とかきこれ芸活
をれ芸活

かくそは男うちのくこゐわゐるたゐるとゐ
はゐくゐれなるゐ文もおをたゐとたふも
やまひ〜てなん〜ふたゐるきて女いと言ゐ
なんゐひゐるかくきこて後きのつのれ詠さ
いゐ世ゐる俊ふつゐゐ言ゐるきとゐもとのき
たる文城なんこそをれ芸活てきゐゐたゐるいゐこのゐ
くもこれハいつのそとをひゐれハつのひめゐ
くゐこくもてきゐあるふちんこゐる女
〜のつのれゐうやゐくと行わゐ〜
見そむゐ〜くゐる我〜ふゐる

義人あつまりて
こもくと位義人の巡爵
して五位ふるまて地下
まうとかりてといつ
なりこれ義人おとと
あるこしとみまとふ
とあやまれるなし
うねの位八陸奥より
貢まる今のまの位く
宮うせあるくらく
系圖と敦慶親王
延長八薨去く
風まろほて
風ふくてきあいとと
かろくいつくいつこと
待をふまるに付る
ことふ説と猶まのく
まてこのくふうもむ
それいとまふいとく

とまみまるうんなきまるかつふまるまて
て大七といひたるとかつふまるまて義人かに
かつくかのつのひうくくはやのまふいくに
なんまるキまる
加武アつの宮うせ殺うたるはきたつきの
亥年
つまうもものさのうふなんまたる堤の中納
亀鶴
まのよみ殺うたる
新勅雑二
六家
ふくもふほひ風ふほのゆさまうまう
ひのよう
三条たちかつくの居の亀こ

そるくの
くるくくいつよ回
後撰雑一
友則
きこのうにこれと
るれのくるるまる
まるふ相たん

物ら
左大臣三やとひつ
こうとしのひふいふ
物らうにてなきこと
おまこうられると
伊勢しかはたらるの
さうかのれきまとおふ
こ

続古哀傷
はるくのもちるまるさまて
まるいあひのくたん人のよ殺うき
かかをおくまたうたる所之伊
殺うたうけさのはの亀盛まるまるまる
めくさ物らのくまひなまうまうせ殺
てねの位とまるふいとあれまう池の水
おもしろきふまるれなみたる
いたまたるほむのまるの殺うて
新こまきまるのなき殺く無く位
ひとの国のるるの法式れ
るるたるるのはあ

むらと花の中に侍りける雪

ふまくさきうたれいひやるなるる

わのるつきこそ

まつとてさとなる雪きつるこれ

こまうれまくいきふるうち法中

打打中納言後の〇寝覚のおぼしと

ひくくてうたるる梅とちのくわうを張り

たるうかれさまあるふんたるをハ

後撰十七上

言とくうつせうをーのひもなく

家

まのちとわるふのこんゆるむこのれ

こよくく張ひくる治考式

おもひ中納言義人よてうたる人の賀礼

ゆるとくくうたるふ芳をうたるよ中納言

古今雅楽

きくくうゆくくきうのうしるねるる

あ

ゆきのまあふくよくるる

こをうんよみ張うたるふうたるのきこる

かつくのこうこの内ふうたるのきこる

字子

たるを毋こあとて和きくつ家ゆうをかを

さくを張うたるれ夜ひよこわつくひく

のつるてかくきこくるあまこてのるこの

くるまよるまいひ以せたる

間

こよいうおなくこのいふるるよる

神名式云加賀國石川郡白山比咩神社

名ふ神ふとうとくく

系圖云清和天皇御子源長猷子喜樹正五位下美作守改喜種

夜ひとよ

古伝日記上巻云廿五日云くひひと日夜夜

夜ふやくくくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宇多院の花ぬすびとの歌

是忠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かゝひのよんおふ道
法名ゑとゝうさも
あるべし

阪
職原抄云藏人所頭
二人四位殿上人中清撰
之職也云〻

けふのハうぢよハわのも
るやゑハあさせさゝ
まーとさて男之と
をうつゝゆさ色系
ふハ〻〻ゝたやふ海と
をゝくゝ山ゝ

たゝ女うちのさゝ曹子ふせゝたる時ーの
ゑくゝこのよ元ゆふ人ゑたう所なりたれ後之
ゆたふふゑたう面のゆる枝さゝーのさゝゝ
のつゝふゝとゆるゝゝ曹子まつゝゑるゆ立ゝ面の
をうたれハむりろを川のつゝとをゝ
六
やりゆひゝあめとふゝゝる角ゝゝは
ゑこのをゝるふゝとゝをかつさゝ所ゝ
四ゝ本のゝうちいひゝたれハいとゝれをゝゝゝゆひゝふを
をゝひ入孫ゝゝ音ゝ
ゝれ女男のゝゝゝれとゝのゝ所のゝゝとのゝて

ちのいたれと思れるる後ふいひやゝたゝる
於き志四
わゝをゝゝるふ身をは思ゝたちのひゝて
六
ひゝのいのちちをーゝゝもゝゝのれ
この歌ゝゝたゝくゝきゝの後
おれゝおゝをゝゝゝのゝゝ言まのきみちゝんゝとゝみ
ゆゝふゝといひのーゝゝ言れとゝゝゝきゝたる和
たれハこのの夏ふちゝゝゝあつたる
ちーゆゝくゝあまのひろハぬうつをのゝも
むりきゝ名ゝとは白つ面ーやゝゝ
ゝんあゝゝゝ芋治れ
むりのゆいゝちゝ大酒ゝ後ふ道家まゆり
弘忠

祇園の宮あの夏
紹運録云源保光号
桃園中納言云〻

うつを貝
続後撰雑下
好忠
波のゝうゝゝまの海
のうつせのひむれ
きこのゝふゑやちゝ
ゑんゝ

あるうたふ和たなのこのまゝまくさくさくさくろ
ゆるあとのこのまゝまくさくさくさくろ
ねはしたゝ上
ぐふうたうそとときの焼ふこのかうろく
わのれつまんとうれとさくさくむ
こまんよみ拾ひ侍る紫式部法れ
くさくさくさくろ
かくをのふふとひのくくはふ尋はい
くくくくやわのれつまくくくく
俱るの西ふかのひ侍る紫式部法れ
の彼國のうたるなのくくなる男
雪の降たるふいひわくをあうくる

下の句はくくく

食ニ卯月とさて
いろ

俊頼の次
作者部類之内五九
葛原直行女

うものかゝれるも
一首のゝ

この色ゝ物とさて（ナレ共活字）
おのゝたのむろのうゝふゆきゝ
きみとふ食まのなきてわひ（このふ活字共）き
俊頼のきゝようものかゝさゝる時もの
このうたきた方このつふまの歌とて
まのうゝぬというれ
きれ（そ山）ぬゝをもおくたのれ
うゝゝんかゝもなきて後一き
かゝたるのこゆのひちうふるゝろ
よみゝおゝをゝいまる

於き系云歌人の
さゝゝひゝゝくのひを
のつひふまゝりふる
ゝて京ふ行ゝゝゝ
ゝゝ一行ゝさゝり
ゝれハゝ
ゝものくゝ行ふ内と
ゝゝくゝさゝ京ふハ居
さゝ一物とゝいうゝ

つゝあゝ
新撰字鏡云暾云、
日初出時也明也豆止女
天又阿志太云、
ゝ和というゝつゝあて女の
ゝゝゝゝ
古今集大哥所

於き雑秋
いのてなほあるのひとふゝゝむ
四ふゝりてのわきとゝぬゝ
ゝいゝりれたかゝ魚一
あるゝゝゆゝひとのゝゝのの
一ゝゝちのひゝふゝゝの一
ゝ和なのゝ如ふのひゝゝ時ほゝゝよ
ゝゝゝるゝ
あゝぬゝゝゝゝ

ちくまの考立ち
つ四ぢ山ちとやら
まて八まつ
いのち
二のゐのかふさ
いつこまとくと
うこ

いのふしくわれはきこもん白雪の
このゐうこくねのもれそたもと
この色こ
この実ほれふきみの和のほこそこれ
かつくのちそのやまの雪
打ち如ふ家ちくく物なこひくく
つくはふまくやまれ
ひとこふとくきこのそ
そのおりふことそうしれのやあこん
海程の色こ

ゐまちくくちひ
ちくゐて打けう
とかくそいつ
哀傷歌三
よしふ和
遠さふ俗てきまひ
まひふ八こきか
らのちふやまん
かくハ殿こ家こあこて
よこうこ人されハ

ゐまちくくこ
うけてまあこ

梁孝王のゐるすとし
て記まと竹園こ山
生ハかくハこうあらう

糸の仗
かゐのまつのつひ
也面清の中ねすねを
はやくむるよこ

ゐまひちふ
よ海つのもれハかこ有ハ
打和こ如ふ有兵和このこや山清見なこ
殺こ有こ殺こ
きここ付る
新勅恋二
御集
たこのくこふ
ひこふこ
三糸の先ち殺こ中ねふいまほのうこ何
定方
糸の仗こ付こ
みこ和こ山こ殺ゐ
こ海こる女の絡こ
こ
こ
ふ

鬼
殿
歌
元良

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東宮祝日
齋宮記云雅子内親王
延喜皇女号六條齋宮
一代要記云齋宮雅子内
親王兼平元年十二月
廿五日卜定云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紹運録云代明親王
三品中務卿云

[illegible]

日本紀竟宴注云
[illegible]

[illegible]

[illegible]

兵衛のかゝ
系圖云師尹描政大政
大臣忠平公四男左大臣
右大將正二位左衛門督
さゝ号小一條左大臣云
こゝ小左大臣のかゝと
あるは左尚のかゝの
あやまりなる歟可尋
ものつきなり
抱朴子云ものつきるき
ものつゝみくのゑとな
るゝこゝはこゝのこゝ只と
のくるゝいふときたる
ものゝこゝ
和名抄云鵝和名須毛里さゝ
卵不孵也さゝ
このひ
かひゝとゝろう和名抄卵
和名加比古
日本靈異記卷下云
殺可比古さゝ

兵衛のかゝ
たゝきみ伯爵小田一條
たゝこゝろこゝの出ふこゝもてくゝとなん史記
なるさゝくんつきたるとやおもひ
ものこゝふあんわゝ程記可云
こゝやもこゝの出ものこゝ
なのきくゝ
女御善子
いまゝとかつふたゝのこゝ出
こゝやの出ものゝ
こゝろとゝろふこゝもれ
かひあるゝたゝ

式部卿の宮
紹運録云敦實親王
一品式部卿さゝ

二条宮
敦実親王の内妹乘
子内侍さゝ

こゝ乳ものこゝ
おもひ
太法
おもいとのゝこゝやもこゝ
善子
ものこゝ式部卿の宮なんもこゝみ
こゝ敦実
こゝ
こゝ
こゝ斎宮の出
乘子
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
後拾冬
白
こゝふるゝ八
こゝ
こゝ
こゝ

内の一ぞくこそは
人のおもへ一とふべ
おもへ〜いろ式物語
の花ものがたりは氏
ぞつゝ一

左のおゝ
系圖云頼貞頼構政大政
大臣忠平公一男云、
天禄元五十八薨七十二号
小野宮殿諡曰清慎公
云、除尹公の兄弟云
されど才次除尹云のむ
こゝろれきひとう
らやまゝこの殿つゝ

なんるゝ「内のゝあれて東ふ有あり」
かゝゝ九の夏大伝院のゝ一あは物
なもゝ殿ゝ元ゝ師尹ものがたりこゝろ
をゝ左おゝ一まゝ氏なるふけれ左乃
おゝ一の左ゝ文れふおゝ一ゝ言るゝろ
内又ゝ匂てゝ保ゝ殿なもゝたゝかのきみ
むゝこゝれ殿ゝ作尹ひぬゝきゝ殿ゝ左ゝおゝ一
こゝやゝゝ文れ乃
なゝのゝこれ々つゝのゝゝも言ゝゝねゝわゝこゝ
うゝやゝまゝゝくゝもゝ殿ゝもゝほゝゝるゝの和

おゝわきゝおゝ〜
系圖云忠平母正二位雅
正尹人康親王女云、
号小一條殿又号五條殿
誕曰貞信公云、
小のゝ〜、
紹運録云源傾子配貞
信公云、宇多皇女次の殿
小左のおゝ一の内母菱
系の云ゝいるおゝ一
皇女ゝ
内わゝ
古ゝ意二
一ゝもついてゝるゝて
人のゝゝ一ゝゝるゝ日ゝゝ
世ゝ法師の尊師ゝて云ゝ

おゝわきゝおゝ一のゝ小ゝ左ゝこゝ内ゝは
ての月ゝ内なゝ殿ゝくゝ内わゝさゝのゝゝいゝそゝの世
たゝまゝふゝこゝろ月ゝのゝおゝもゝ殿ゝゝのゝわゝゝるゝふ
ゝゝ一ゝふゝ世ゝゝ殿ゝゝ物ゝのゝいゝゝあゝは世ふ
おゝ保ゝゝ社ゝ殿ゝ世ゝゝゝ

院うゑ帝一条院の
御息所の宮ばらをこえ
せさせ給へ

きぬぎぬかな
你蘇芳中蘇芳浅
蘇芳かと三条式部
こゆ

きさいの宮
女后名字抄云東七条
后藤原温子宇多后
関白基經女云

かくこの宮
うせ給ひ少の宮は
院の宮女御腹の
御消息にてをゆるされ
給へれかくの給へる

うちふけぬせうそこきこえたまふ元色
内裏 消息
ゆふけさとなるまうこゑるさうまけさは
おとゝいふとほとゝぎすこのさねは
なのみきゝわたるもあさいのえにまね
ゆ虎の御消息ゝのいろ社
しくもつゝかくをゆるさせ給へ
おのれときこえたまふけくよみた
まうけるる

ぬくとなれかれと思ひきゝ人の
このいろのいろ見まゝあらは

世の中のうれ
たくもう考へして
板おもひ　わたる
こゝもとゝれ人ゝ
いとゝ

とゝたんたなき給へるをたゝ八月廿
おもんはしたまうこゑれ
うゝの帝は宇多
大井ふはのゆはたれ　おわさ　おはゝ
とゝのふふいるゝいかそゝろ
ゆるとたゝ紙のきれ　くめゝ給て約
者もあんれいと無あるわふたゝ
うまれの　ゝ拳ゝ　せきをまうんを
やうまうはゝ　ゝ
於芳蘇秋
大鏡　いのゝふゝねのゝもゝ乗人あゝは

大堰川
山城名勝志巻十六
源出自丹波国末流入
淀河也云々

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ある人公宮に於きふ
後ハしらねどかくま
て行れしとあるハ此ち
のくこもりふ奉
ぬていつよれハ
よりかくまてそこ
こと奏しふ
つくまとふる後
のちのこころつひせ
ハこころのねらひ後こそハ
かまて行るまの
くてハつきてんとの
らんかくよりふこと
とくふきいつるか
一人のこころつひ
まてくるとふ
あるとふかり
こくこととまぐら
とのく

まくさくるまいかまのるとしてあさく
はのるまるのうこんときに参しを行く
なやいひおきくまてめるたのね
あるくおねのもかよるふこ歌ん
おこもこうりをとれは

新古今傷

くやしなふあくんと参らまの
けふらよのきうとふこまし物
とのみかきこういかあはまし
なこうとこうりつのひかこふこの
その一ぬとやくは後もいよあ

さくくせもゆくくん
おふ仕のおくくいひ
いろ和ふあさやのに
ゆくさるしふやくい
つるひるるく仕のふ
くとゆて公光のまく
さくくふくくあといく
ゆくこにくい景ハころ
ふくくりくきくふ
いふくくのくいつえ
をまの込ハいるくれく
かくこうのくくりあ
くるいり

さの忍のはつ
拾芥抄云陽明門さ
五間戸三間号近衛御門
北端云

くなるるぬひのくくとおくをきし
くふさくくよ後くひのくたくいま間
るるくくといひくくはるくふ
やるくくまつるれくくくを
をあのはつふおるくれくて
たせゆくこ五あ一条ゆ和のあくこて
いきつきくくこれをいとふくうはるき
のくくるくつくはあるたくを
消息いひいるれあ和のの申ひ
くくくく

[illegible]
[illegible]
[illegible]

酒井人真
古今目録云延喜十四年正月従五位下土佐守云々
[illegible]
和名抄云山城国紀伊郡鳥羽渡云々

[illegible]

かてありたるとのゝくらう奏し
たれハ帝もこのきゝ給ハ(あん 芸活れ)ぬ歌のり殊賞
ち侍のゝふあり侍る海辺のひ市ハ
いひたるゝ人病しもよるくたるゝくさん
なりたる事ふれとくみたる

ゆくひとそのゝこゝろんさいふ物を
こゝろほそ(あれ)しやゝ事のわれハ

平仲の色このゝ[illegible]ふ帝ふき
京殿なのゝろ人ゝ帝ふきく
なんを物むわ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

温子

[illegible]
[illegible]
[illegible]

係想
無二

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

続後撰恋一

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

みなのむらたちそれあんいとさきこのん
袖つきこうたるそせとおりおちり
たうけれいたのまさしたんはるのつり
さいしくいひつきよまるかちきよ
音ふ髮なきのくあくしすきかのう
とふなんるたるいんこうん人こ音はう
しけれとおりひあのりて男なるきて
あんるたるされとせちふよそひたれは
あひふたりうるのあしたふそもおもい
せ次よるふまくれたるきたこうるとと

附

八法

小倉法華

係想

ひつきハれよひつ
くるのつきこ

下行れるの下り
まくこうをくいうと
くるきこう

ありくも
とまておりくのうさ
うくもあひきゝ殺人
もありてこさこう
かくあひ絶てかくるめ
こうふよれということ
こうて又自こうつう
こうよりつ手伴うう
をいつう

おそひあのうしてみのはまてをふこも
おこせひそ東しうまちうもれとあり
あふはのあ人なるいとあるれのの
したまふときこ人をあ和くく
かくあひ角てまつう殺てうこうつのこう
殺いと角もはそうあまふ吉ものそ
こ内文をこうれ一章こまくあふう
ひうなとこ社のきいふこうちれも
おりひるこうる殺人ふひ音きは
こうくやとひくあきふ程

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せうこう
古今秋上
[illegible]
[illegible]
川せうこう[illegible]
[illegible]
遥遥の字考[illegible]
もこう[illegible]
[illegible]の遥遥遊[illegible]
[illegible]遥遥の字[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

和泉式部集

元法師ふるうして髪のきれたるを結つゝ

かいこねのくるかゝつくるねのくるかゝつくるあまのかはのなかれ向し

あまの川ふたとゝていつ

なきもと

こゝろとゝまつくいつる雄畧紀ふ心府とコロキモと訓さう相

無ゝくふまゝりてハいとくんくゝうなきもつくるやうふゝんゝ

けさち

下種の字ゝゝみや

代ゝゝゝゝ美ゝ三ゝ六中原

範政申文制哥

このくゝるゝ吹ゝれは

あまの川ゝゝれふ物ゝゝ

ふゝ

やゝかゝ

面ゝとゝるゝ

ゝゝ

ゝゝ

ゝゝ

ゝゝ

ゝゝ

ゝゝ

ゝゝ

ゝゝ

さきふつゝあゝゝ八

ゝふうゝれてけゝの

ゝゝゝゝゝ

知ゝゝゝゝゝ

ゝゝ

ゝゝ

ゝゝ

ゝゝ

ゝゝ

ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古事記巻上云猶其
惡態不止而轉ア[illegible]
安康紀宇多氏物云王
子[illegible]

[illegible]

後撰遊四

六

[illegible]

[illegible]

[illegible]

詞花恋上

わのくるをんなふつゝきくとハ恋のつ
月のつれなき世とやうゝまむ（かたくなむ）
をいひ申ばけ世をみれくかゝ一つき
てこゝろもちのんもちめよそひ恋とゝみ
このとふ月てまつらんとゝあゝ世ぬ月家
世ぬ世ぬ世ぬくゝ月れ月れハおやゝ（さゝ日）
なわふたゝ楽
おゝ元良新つの世をこの女ぬかゝふふまゝ
しのまたるゝとき世ひたまうたわ
こゝ、

妙家ぬ小世をハゝあ
ゝゝ世のくふあゝ
めゝゝあゝ一月のハ
つておきゝていまふ
かゝてやゝ食まゝてハ
及ゝハやゝ食ハやゝの
ゝゝ月てうゝんやゝ
恋ゝとゝゝゝ世ゝ
ゝあうゝと世一月に
ゝあゝのくハゝ月ぬ
やゝ一月ゝ一月花
食の撰ゝゝ世食
とうゝかゝれて月と
あゝゝめゝれゝゝや
月とうゝむ月てゝ
ゝゝん